www.nemurihime.info

眠り姫

七里 圭 監督作品

声 つぐみ
西島秀俊
原作 山本浩司
山本直樹
音楽 侘美秀俊

人が姿を見せない。からっぽの風景に、
濃密な人の気配と声だけがさざめく映画。
記憶の奥深くまで語りかけてくる、
この奇妙な世界に入り込むと、
いつしか人の孤独な心だけが
見えてくる。

いくら寝ても、寝たりない——。

どうも、何かが変なのです。

中学校の非常勤講師をしている青地（つぐみ）は、このごろ学校へ行くのがおっくうで、いくら寝ても寝不足の感じが抜けない。長くつきあい過ぎた彼氏（山本浩司）との会話は上滑りし、好きだという気持ちもすでにおぼろになっている。繰り返し見続けるのは、記憶とも妄想ともつかぬ、奇妙な夢。どうも、何かが変だ。面長の同僚教師・野口（西島秀俊）は、自分の顔のことは棚に上げ、青地の顔がだんだん膨らんでいると笑う。トイレに貼った猫の写真は、見るたびに何か言いたげだ。そこはかとない現実への違和感が心を占めていき、やがて青地の中で、意識と無意識の境界線が消えていく…。

眠り姫

声
つぐみ　西島秀俊
山本浩司

大友三郎
園部貴一
榎本由希
橋爪利博
張替小百合
横山美智代
五十嵐有砂
馬田幹子
坂東千紗
北田弥恵子
斉藤唯
新柵未成

[監督・脚本・撮影] 七里圭
[原作] 山本直樹
[企画] 越川道夫
[プロデューサー] 棚沢努　平林勉
[撮影] 高橋哲也
[録音] 小林徹哉
[音響効果] 岡瀬晶彦
[整音] 横田智昭
[仕上] 三本木久城
[制作] 平林勉
[音楽] 侘美秀俊
[演奏] カウヒ・レゾナント
[宣伝] 原田徹（スリーピン）
[宣伝協力] 山本ゆい
[スチール] 宮沢豪
[機材協力] パナソニックDV ワークショップスタジオDU
[製作・配給] charm point
2007年　日本
デジタル作品　80分
スタンダード　ステレオ
© 2007 charm point

www.nemurihime.info

『眠り姫』に張りつめている空気は、良質な静物画のそれに似ている。シリ・ハストヴェットは18世紀フランスの画家シャルダンの静物画を評して、ただのリンゴや水差しが人を感動させるのはそこについさっきまで人がいたことを思わせるからであり、それによって、私たち人間がいずれ死ぬ身であることを思わせるからだ、と書いている。この映画にも同じようなことが言えるかもしれない。

柴田元幸（東京大学教授・翻訳家）

わたしだってひとりになりたいときがある。誰にも会いたくないときがある。

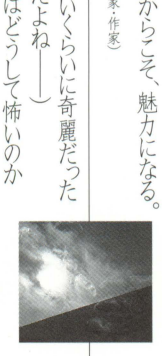
誰かに会うのがわずらわしい。誰とも話しがしたくない。そんな誰にでもある、どうしようもない気持ち。毎日、同じ日常の繰り返し。家と職場の往復。何の変化もない毎日は続いていく…。ひとりの女性が抱える、ぼんやりとした不安。目の前にあるものに感情が動かない。人がいるはずなのにいない。誰にでも起こりうる崩壊のきざし――そこに差しのばされた手は「救い」なのだろうか。

なぜ眠る女が魅力的なのか映像を通して教えられたように感じる。その女はよく眠る。眠る女が発するのは夢がはらむ心地よいめまいだ。だから人をひきつける。うまくつかめないもどかしさが、だからこそ、魅力になる。

宮沢章夫（劇作家・演出家・作家）

雲と木が怖いくらいに奇麗だった
手は変　（だよね――）
日本の家屋はどうして怖いのか
日本が恋しくなる理由のすべてが詰め込まれていた
この2、3週間の間に　この映画を何回も繰り返して見た
そんなことしたのは初めて
女の子が作った映画なのかと思った

花代（踊り子、歌手）



自分だけがひとりぼっちだと思っている季節を、肯定してくれるような映画だなと（この文はおおいに矛盾を含んでいるのですが）思いました。しかも無言で、うなずきもなにもなく。

豊島ミホ（小説家）

独りの若い女性の心にわく、奇妙なズレと違和。その繊細で、大胆な映像化。

『眠り姫』に写し出されるのは、ありふれた日常の、ありえない光景。人間が、ほとんど姿を見せないのだ。登場人物の濃密な気配はするが、声だけが響く。恐ろしいほど美しい心象風景が、人を写す以上に人の孤独を、情感を浮き彫りにする。冬の淡くうつろう光を狙い、足掛け二年の歳月をかけて生み出された、奇蹟のような映像詩。

監督は『のんきな姉さん』で鮮烈なデビューを飾った異才・七里圭。前作に続き、孤高の漫画家・山本直樹の原作に挑んだ。山本直樹の「眠り姫」は、芥川龍之介の死をモチーフにした内田百閒の短編小説「山高帽子」が原典。その重層的な物語世界を引き継ぎ、日常と幻想、現実と夢が交錯する、めまいのような映画を作り上げた。主人公の女性・青地（声／出演）には、つぐみ（『紀子の食卓』『フリージア』）。芥川を彷彿とさせる同僚教師・野口の声に西島秀俊（『LOFT』『トニー滝谷』）、青地の恋人・達ちゃんの声に山本浩司（『サイドカーに犬』『それでもボクはやってない』）。存在すら確かでない登場人物たち…。その声に耳をすまし、不可思議な映像に身をゆだねていると、主人公・青地の心の奥底がいつしかレントゲン写真のように浮かびあがってくる。露わになった人の心の危うさを垣間見るとき、我々はいまだかつて観たことのない、まったく新しい映画体験をする。

とてもリアルな夢がそうであるように、いつか映画として観たということを忘れ、自分が体験したことのように思い込んでしまう日が来るんじゃないかと、少し怖くなる。

東芋（現代美術アーティスト）

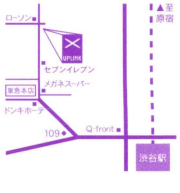
遂に5度目！一週間限定のアンコール公開決定！

3/28[土]～4/3[金]

連日20時50分～レイトショー

◉毎日、先着5名様、特製ポストカードプレゼント！

当日：一般1,500円、学生・シニア1,000円（日曜、水曜はサービスデー1,000円）

UPLINK X

アップリンクX
東京都渋谷区宇田川町
37-18 トツネビル2F
tel.03-6825-5502